

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年2月14日

No.9

要求実現に向けて不退転の決意で臨む！！

ベースアップ76,000円要求！

回答指定日 3月16日(金)

～ 「2018年度新賃金要求の申し入れ(申第10号)」第1回交渉報告 ～

中央本部は、本日10時より「2018年度新賃金要求の申し入れ(申第10号)」とあわせて「諸要求改善に向けた申し入れ(申第11号)」を会社に提出しました。

申し入れにあたって中央本部は冒頭「今交渉は、要求実現にむけて組織を挙げて不退転の決意で臨む」ことを表明しました。その上で①JR貨物30年の歴史の中で18年間はペアゼロである。会社は黒字を達成し、黒字の継続を目指すのであれば公正な配分としてペアゼロは理不尽である。②安倍首相ですら3%賃上げを各企業に求めている。わが社の株式は国が全て保有している。国の要請に応じて経営陣として約束を果たすべきである。③組合員はこれまで黒字化に向けて汗をかいてきた。今度は経営陣が汗をかかなければならない。④以上のことを踏まえて、2018年度の新賃金は定期昇給4号俸を前提として基本賃金一律6,000円の賃上げ要求を行なう。また、諸要求改善については諸制度の改善、契約・臨時社員の労働条件の改善、職場環境改善の内容を申し入れる。回答指定日は3月16日とするので誠意ある回答を示すことを主張しました。

これに対して会社は、①昨年度は悲願であった鉄道事業部門の黒字化を達成することができた。また日々の業務や現在も続く輸送障害対応に対して貨物労組組合員が協力していることに改めて感謝申し上げる。②今年度も残り1カ月半となったが、1月後半からの輸送障害の影響を受け収入状況は非常に厳しいが、目標である黒字化の継続という目標は維持していきたい。③来年度は経営自立計画の最終年度であり、現在事業計画を策定中であるが、固く見積もっても相当厳しい経営になることが予想される。会社の経営基盤は決して盤石ではない。③これまでも貴組合とは真摯に交渉を進めてきたが、一方で現場の社員と経営陣の意識の乖離について指摘をいただいた。申し入れの要求項目について、回答指定日にむけて真摯に交渉を重ねていきたいとの見解を明らかにしました。

会社の見解に対して中央本部は①賃金の引き上げは成果の配分ではなく生活給である。経営陣は目先だけにとらわれるのではなく、将来を見据えた人間味のある回答を言葉だけでなく、結果で示すこと。②「不退転の決意」とは労働者としての権利を行使することも含まれていることを通告し、交渉を終了しました。

組合員の皆さん。2018JR総連春闘がスタートしました。春闘とは「組合員が団結し、要求実現に向けて統一した闘いを展開する」労働組合の一大闘争です。18年連続ペアゼロのあきらめムードを打破し、将来につながる賃金改善を獲得するためには、今までの延長線上の闘いでは要求は実現できません。職場から全組合員参加の闘いをつくりだそうではありませんか！中央本部その最先頭で闘うこと明らかにして、第1回交渉報告とします。

次回、第2回交渉は2月19日(月)です。

以上